



推理小説を、そのドキドキワクワク感から夜を徹して読み進め、自分の頭の中で犯人を捜し、こういうトリックではないかと考え、現場となっっている景色を想像し、最後に自分の予想していなかったとんでん返しが起こり、スッキリしたり、がっかりしたりした経験があるのではないかと思えます。

結果を知ってから推理小説を読む

テレビはスイッチオンしておけば、世界観そのものが映し出され、映像技術の進歩から想像しきれなかった世界が事細かく映し出され、居ながらにしてさまざまな世界に飛んでいくことができます。なので、制作者や出演者は機微なところまで気を使い作品を作りま

このテレビドラマや映画を視聴するスタイルが、大きく変化をしました。コロナ禍の影響もあり動画配信サービスが普及し、映画館に行かなくても、オンタイムでテレビの前になくて、多くの映画やテレビドラマなどを楽しむことができるようになったのです。

変化する視聴スタイルと

報を得るのが目的なので、その目的を達成するために、わざわざ標準速度で見ると必要はなく、効率的な速度で、時間を短縮して見ればよいという考え方は、②のスマホ視聴は、いつでもどこでも時間が空けば視聴できるという利便性がメリットです。しかし、スマホの画面で倍速視聴をする

と、制作者が意図したことを見落とすのではないかと考えられます。

そして③の「ネタバレ」視聴です。推理小説の結果を知ってから読むことはあり得ないのではないかと考えていましたが、実際に学生に対してアンケート調査をすると「ネタバレ」視聴経験者は30%近くおり、なぜ、結果を知ってから視聴するのかの理由を質問すると、「安心感」という答えが返ってきます。つまり結果を知ることによって「安心」して視聴をしたいという気持ちと、とんでん返してもバットエンドもいらぬということです。この不安定な時代に、せめて視聴する映画やドラマぐらいは安心して見たいという表れだと考えられます。

“安心感”を得たいがために



愛知淑徳大学 学部教授 新井 亨

ともよみあります。推理小説は能動的に書籍を開き、読まなければストーリーは入ってきません。

して気になるところとして、①再生する速度を1.5倍や2倍速にして視聴する倍速視聴②スマートフォンなどの小さな画面による視聴③結果を先に見てから、プロセスを視聴する「ネタバレ」視聴が挙げられます。

①の倍速視聴については、「タイパ」(タイムパフォーマンス・時間対効果)というところで説明をされています。つまり、必要な情

結果を知ってから、スマートフォンで効率よく倍速視聴し話題作の情報を得ることによって、流行に後れず、周りや情報を共有するというスタイルがこれからも増えていくと考えられます。

あらい・とおる 愛知大学大学院経営学研究所修士。経営学修士。1969年生まれ。